新約P.433 ペトロへの手紙4章10節

「あなたがたはそれぞれ，賜物を授かっているのですから，神のさまざまな恵みの善い管理者として，その賜物を生かして互いに仕えなさい。」

証

M.S

　私は高校に入学するまで，キリスト教というものに触れる機会はあまりありませんでした。この聖句は，そんな私が入学してからの毎朝の礼拝で何度も聞いた聖句です。2,3年生の皆さんは，一度は聞いたことのある聖句であり，1年生の皆さんは，これから何度も耳にする聖句だと思います。私は将来のことを考えていく過程で，この句の意味を少し深く理解したように思います。

　私には，授けられた賜物などない。そう否定的にこの聖句を捉えた入学当初の自分をよく覚えています。5歳の頃から腎臓の持病を患い，入退院を繰り返していた私は，他の子供たちのような自由な暮らしができずに，つらく悲しい日々を過ごしていました。好きなものも食べることも，外で遊ぶこともできず，いつもなぜ自分だけがこんなに苦しい思いをしなければいけないのかと，自分の運命を恨んだ時期もありました。中学生になって体力が戻ってからも，第一志望としていた公立高校の受験に失敗，入学後は学習と部活動の両立がうまくいかず，気づけば受験生となり，思うように伸びない成績に不安を覚えるようになりました。何もかもが思うようにいかずに，私にできることはない，賜物など授けられなかったのではないかと考えていました。

　尚絅で毎朝の礼拝を守り，聖書の学びを深めていく中で，自分にとっての賜物は何なのか，神さまは私に何を恵みとして与えられたのかを次第に考えるようになりました。過去を振り返るほど，暗く，つらい過去ばかりだと思い込んでいた私は，あることに気づきました。それは，苦しい経験は自分を成長させるということ，そして，それは一緒にいてくれた人がいたから乗り越えられたということです。私は他の人たちよりも失ったものは多いと思います。しかし，そこから得られたものも多いのです。私が経験したことは神様からの試練であると同時に，恵みでもあったとも思います。そして「賜物」とは，私は「できること」と捉えています。人それぞれにできることがあり，それは人それぞれで違います。「あれもできない」「これもできない」などと嘆くのではなく，自分にできることを見つけ，それを伸ばし，生かしていくことが大切だと思います。 家族や医療スタックにあたたかく支えられながら困難を乗り越えた私は，医療に携わる者として病気で苦しむ人たちを力の限り支えたいという夢を持ちました。そしてこれは，この聖句の後の，「奉仕する人は，神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい」につながるのだと思います。

これまで私を支えてくれた人たちへの感謝を忘れずに，これからは私に与えられた力を最大限に伸ばし，それを生かし，他人を支え，愛していきたいと思います。